

脳小血管病

歌の文句にあるという。「知らぬが仏ほ
うとけない」と。そうだ。中高年ともなる
と、脳にも色々不具合が出てくる。が、
「そんなもの」と、ほっとけないだろう。

61歳のSさん。少し血圧が高く、糖尿病
も疑わしい。だが、医者嫌いで放置してい
る。それがどういいうわけか、脳ドックを受
けることになった。「頭は、全く問題ない
でしょう」と、自信たっぷりなのSさんだ。
確かに、もの忘れない。脳の症状もない。

だが、頭のMRI（磁気共鳴画像）の検
査では、大脳の深部に小さなキズがいくつ
も見付かったではないか。髪の毛よりも細
い血管の流れがあちこちで悪くなり、一部
の血管が詰まっている。白質病変やラクナ
梗塞である。最近では、これらに微小出血な
どを含め、まとめて「脳小血管病」と呼ん
でいる。

脳小血管病は、脳の細小動脈から毛細血
管にかけての障害によるものだ。異常があ
れば、MRIの検査で簡単に見つかる。が、
多くは無症状である。しかし、脳小血管病
も進行すれば、やっかいだ。バランスの悪

化や歩行障害。うつや活動性の低下、排尿
障害が起きたりする。と、やや抑え気味に
説明したのだが、Sさんの表情が強張って
きた。

認知機能が障害されれば、認知症だ。記
憶障害は軽いので気付かれにくい。思考速
度が遅くなり、注意力が低下する。仕事の
段取りが悪くなったりする。「何か予防す
る方法は？」と、Sさんの声はふるえてい
る。

脳小血管病の危険因子は、脳卒中発症の
危険因子と同じである。加齢の他に、高血
圧、糖尿病、脂質異常症などの生活習慣病
や喫煙などだ。だから、Sさんは、もっと
真面目に高血圧の治療を受けるべきである。
いや、他人事ではない。生活習慣病がある
ひとは、早期に、脳血管の異常の有無もチ
ェックしておいた方がよいのでは。

（石黒修三＝いしほろくじニック・脳神

経外科医… 3/7北國新聞掲載）